

## 2023年度夏季手当妥結にあたってのバス東北本部見解

JR東労組バス東北本部は、2023年5月18日に申6号「2023年度夏季手当等に関する申し入れ」を行い、コロナ禍前より赤字経営が続いてきた状況を脱却し、2022年度決算が4期ぶりの黒字経営を実現したことで、組合員・社員から夏季手当に期待する声が多く寄せられていることを訴えてきました。

その声の裏には、2023春闘で2,500円というベースアップが実施されたものの、コロナ禍での定期昇給及び期末手当の減額による収入減によって、実質賃金が大きく目減りしていることや昨今の物価上昇に歯止めがかからない現状による苦しい生活実感があるからです。また逼迫している要員不足が継続している中で、現場長や管理者までもが点呼業務やバス運転乗務を行うなど全社員が一丸となり、4期ぶりの単年度黒字経営を実現しました。今夏季手当交渉は、会社側が私たちの思いを受け止め、黒字経営に貢献してきた労働実感に対して満額回答を引き出せるかどうかというたたかいでもありました。

そして6月14日の第3回交渉において、バス社員が2.25ヶ月と契約社員が基本日額の23日分の1.95倍という回答が示されました。支給率については要求に届かないものの、一方で特別手当の50,000円要求については満額支給を実現でき、成果と捉えることができました。会社からは、これまでの社員の努力に対する感謝と、夏季手当に対する思いを受け止めながら最大限の回答をすることが交渉議論の中で言われており、一定の認識を合わせることができたことから、回答日当日に妥結の判断に至りました。惜しくも、2023年度夏季手当のたたかいにおいても、コロナ禍以前の支給率まで戻すことこそ出来ませんでした。バス社員の平均基準内賃金をもとに支給率を掛け合わせ、特別手当を加算すれば、我々が要求している2.45ヶ月以上となります。

振り返れば、私たちはコロナ禍での様々な会社施策に向き合い、苦しいながらも「人材流出を防ぎ、雇用と職場を守り抜くためのJR東労組バス東北本部緊急提言」を実践し「協力すべきは協力し、言うべきことは言う」姿勢を貫いてきました。職場からのたたかいを通じて組合員・社員の声を最大限訴え続けてきたことが、今回の会社回答を引き出すことに繋がっているものと言えるのではないのでしょうか。これまでのたたかいは決して無駄では無かったこと、そして労働者として声を上げる重要性を改めて認識できたことを大きな成果とし、今後も社員の生活を守り、会社の発展を支えるためにJR東労組に結集し声を上げましょう！

コロナ禍が過ぎ行動制限が緩和され、世の情勢に明るい兆しが出てきたとはいえ、まだまだ私たちのたたかいは続きます。その一つが支給率を元に戻すたたかいです。その筆頭要因は組織現実であると言えることから、「JR東労組バス東北本部緊急提言」を実践・継続し、組織強化・拡大の実現に向け、職場からのたたかいを堂々と展開して「この会社に残って良かった」と思えるような魅力ある職場を私たちが作り出していきましょう。

最後に、これまで共に職場からたたかいをつくり出した組合員の皆さんと各機関からの激励を頂き、交渉団を支えてくださったJR東労組の仲間とご家族の皆さまに感謝を申し上げ、バス東北本部としての見解とします。

2023年6月20日  
東日本旅客鉄道労働組合  
ジェイアールバス東北本部